

2月15日	金	14:00 ～ 15:00	<p><b>診療所内カンファレンス 横田整形外科 7名参加</b> 6症例のカンファレンスを実施 サポートセンターは他の会議と重複のため出席できませんでした。悪しからず・・・。</p>	
2月18日	月	14:00 ～ 16:00	<p><b>出前講座 ふれあいサロン満月100歳クラブ 12名参加</b> テーマ「脳年齢測定」</p> <p>会長様の講演のあと希望者のみ「脳年齢測定」を実施いたしました。 参加者最高年齢は98歳。10歳以上若いという結果が出ました。笑顔の素敵な男性でした。 検査の前に、実年齢とあまりにもかけ離れた高齢と結果が出る場合は、伊都医師会の先生に相談に行くようにとオリエンテーションして始めました。 しかし、受診していただく方はおられず、大半は実年齢より若いという結果になりました。 確か、医師や薬剤師さんに聴いたところによると、どうしても実年齢よりも高齢になるので本当に信頼できるのかと半信半疑でしたが・・・。 医師会長に報告しておきます。</p>	
2月19日	火	14:00 ～ 15:00	<p><b>診療所内カンファレンス 梅本外科 14名参加</b> 3症例のカンファレンスを実施</p> <p>投薬に関する先生の考え方のとして、生活者のパターンや家族背景・医療介護チームの方の情報をキャッチし、包括的に生活者をとらえ、その方にあった服用方法・時間を考える・・・ということを大切にされています。処方だけして、あとはケアマネや介護者にお任せするのではなく、情報交換と評価をしながら意味ある投薬を目指しているとのことでした。また、生活者を中心に周りの人々をチームの一員として認め地域に根差した医療提供をされているのがよく解りました。</p> <p>保健看護学部3年生4名の出席がありました。「診療所内カンファレンスをしてどうか？」という質問に対し先生は「普段の生活全般の情報が得られる。」「様々な病気を持った生活者として包括的にとらえ考えあうことができる。」と。また出席者からは「かかりつけ医の必要性を感じる。」「医師の考え方や方針が理解できる。」「病院においても在宅医療への関心は高まっている」とのこと連携は確実に深まってきているように感じた。</p>	
2月19日	火	16:00 ～ 17:00	<p><b>診療所内カンファレンス 前田医院 17名参加</b> 7症例のカンファレンスを実施</p> <p>ケースカンファレンスの後、情報共有として提出された事例 高齢者、要介護認定、生活保護受給 独居 遠い親類連絡先あり（死亡時のみ）の担当ケアマネからの報告。 行方不明と2回繰り返して交通事故 本人は自転車。2回目の事故は和歌山まで救急搬送。ケアマネが呼び出されて同乗。急性硬膜下血腫のため手術が必要となったが、親類は同意せず。「医は仁術」に基づき医師は手術決定、病院側はケアマネに同意書を求めることはなかったが、ケアマネには手術をすれば助かる命を見送ることはできないと報告があった。包括や役場にも連絡をして指導はしてもらえらるが、実働はケアマネしかない現状。いつまでケアマネはボランティア活動を続けなければいけないのか？どの地点で誰にバトンを渡すのが正解なのか結果は出ませんでした。 今回のケースは予測不能なケースであり、今後このような類似ケースが増えていくと思われる。関係部署と日頃からしっかり連携を取り、スムーズに対応できるような準備が必要ですね。</p>	
2月20日	水	14:00 ～ 15:00	<p><b>診療所内カンファレンス 萩原内科小児科 9名参加</b> 15症例のカンファレンスを実施</p> <p>九度山町の介護認定について 今まで全国一介護認定度の高い町であったが、最近認定が特に厳しい。九度山町役場としては、必要な人が必要な支援を受けられるようにと考えて公正に手続きをしているが、申請者にはそう受けとられない。もちろん間に挟まれたケアマネが心を痛めておられる。過去の状況は不明であるが、高齢者が増え、独居も増え、地名の通り坂道の多い町で、安心して暮らせるためには、何らかの誰かの協力なしでは難しいですね。フォーマルな支援とインフォーマルな支援を整えて歴史ある九度山町で暮らせるようなアイデアが必要となってきます。</p>	